

上海ロックダウン影響回避へ 対策強化

中国プロジェクト
執行役員

ゆ しん けつ
愈 箴 潔



今年の2月17日に上海へ戻り、異変を感じなかったので、安心状態で以前と同じようにホテル生活と自宅隔離を経て、しばらく出社したら、現地社員から、「コロナの密接接触者がいるから、住んでいる住宅区間が数日間閉鎖、出社できなくなる」という連絡が急に飛んできた。数日間なら大問題ならぬだろうと考えたら大きな間違いだった。3月27日夜に突然「28日～浦東、4月1日～浦西が1週間ロックダウン」の通知が出された。1週間なら自宅勤務し、出荷は翌週の月曜日すればよいと甘く考えまわっていたら、なかなか解除されず、2か月まで厳しく封鎖されてしまった。幸い各メーカーが自社内製造社員が泊まり込んで対応して、生産体制を維持できたことと、地方にいる関連会社の社員が京二の代わりに出荷手配していただく体制を急遽整え、問題なく生産と輸出の基本ルートが維持できた。一部の納期遅れ発生もあり、お客様にお詫びと連絡を追われている日もあったが結果的には皆様の努力でつらい2か月を乗り越えられた。

中国の都市部は地震のような自然災害が少なく防災意識がほとんどないといえる。コロナによるロックダウンも上海にとっては夢にも思わなかった状況であり、今回の反省と今後の対策として下記のように実行している。

対策の強化

- 1 出荷対策 — グローバルな物流業者と契約し、中国の地方都市3か所から荷物をピックアップできる体制を整える(鄭州、北京、蘇州)。通関はペーパーレス通関が可能のため、自宅勤務でも書類作成とネット提示が可能。
- 2 数名のベテラン社員に自宅勤務や会社のサーバーに入れるような遠隔操作体制を整える。自宅にいても受発注や入荷が可能。売上は税務局のネット売上システムを利用。
- 3 お客様にもっと迅速に現地の情報を入れることによって、日本の代替メーカーによる供給も行う。
- 4 中国国内の物流、海外物流業者は複数を持つことが重要であ

り、今まで価格やスピードで判断したが、地理的に広く対応できる業者を優先的に使用する。

アンラッキーの中で一番幸いなのは、社員たちが誰も陽性にならず、食料で困ったり病気になったりすることがなかったことで、6月1日から全員が出社できたことである。

日本でも報道されているように、中国の2022年4月～6月のGDP=国内総生産の実質成長率は前の年の同じ時期と比べ+0.4%に留まり、経済の失速が鮮明となり、消費の低迷やゼロコロナ政策によるロックダウンの影響などが大きく出た形で、政府通年の目標成長率「5.5%前後」の達成は困難。やっと、日本では行動制限を撤廃、お客様の生産が正常に戻り、海外工具の受注も好調である。一方で従来の商品で利益創出が一時的に難しく、コストパフォーマンスが感じにくい部分があるが弊社の新商品群の砥石、研磨パウダー、ソリッドCBN工具など価格メリットのある商品群の構築が急務としている。

ウクライナ情勢、急激な円安、中国のゼロコロナ政策による行動制限などマイナスの材料が多い中、安全かつお客様に安心していただけるような体制を整え、加工効率をアップできる中国製品を日本のお客様へ紹介し、認知度をアップさせることが課題としている。



上海市内の様子